

はじめのいっぽ 2019 報告



ここは、東京代々木にある、国立オリンピック記念青少年総合センター。今年も全国から集まった皆さんのエネルギーが結集され、3日間の暑い研修が行われました。

8月5～7日に行われた、「はじめのいっぽ2019」の様子をご報告します。

<講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ>

「ようこそ はじめのいっぽへ」
「きこえ・ことばの教室 一期一会」
「さんじゅうにつながる」



「いいところさがし」の専門家です、
という言葉が印象に残りました。



ことばの教室経営の例は、
非常に参考になりました。

講師の方々やスタッフの方々の温かさ、熱意に触れ、「やりがいのある仕事だな。子どものために頑張りたい!」という思いが強くなりました。

<ワークショップ・分科会・相談コーナー>

分科会は、同時に5講座が開催されました。どこに行こうか迷ってしまいます。少人数での情報交換も。

「構音指導」
「構音検査」
「吃音」
「言語発達」



教材も参考になったし、お話が面白かった。

幼・小のつながりが見え、特別支援学級の児童との関わりにも関係するお話が伺えました。



実際にやってみたり、グループワークもあつたりして、充実した時間を過ごすことができました。





どの先生も、子供の困り感に寄り添い、子供に真っすぐに向き合っていることが共通していました。

「構音基礎」
「聴力検査」
「発達障害」
「教育相談」
「聴覚学習」
「ことばの検査」
「読み書き障害」

知識的な面だけでなく教材も提示してもらったことで、LDの児童への理解が深まりました。

難聴児童とどのように向き合っていくのか、考えさせられました。また資料等たくさん見せていただき大変勉強になりました。



県や市、町によって様々な形の教室があることを知りました。



<講座V・VI>

「卒業生に学ぶ」
「子どものこころとことばの育ち」



「からだ」と「こころ」を育てない限り、いわゆる「学力」は積み上がらないということを学びました。日々の指導の中で意識したいと思います。



とても貴重な時間でした。実体験からの思いや考え、感じたことなどをお話いただき、考えさせられることが多かった。

通級、教育の原点とは何かを知ることができ、有意義な時間となりました。

